

駅、ホテル、商業施設が一体感を持ってつながることが大切ではないか

水辺ウォーキングトレイル修景事業などと合わせ、景観や動線を一体的に考えていきたい



廣中 清介
市民クラブ

三河田原駅前工場跡地活用事業について

問 市民への情報提供について具体的な予定は。

答 6月議会を始めとして、市ホームページや関係地域への説明会などで、情報提供を進めていく。

問 外国人観光客の消費を取り込む工夫は。

答 Wi-Fi環境整備、案内やメニューの多言語化、観光案内端末での情報発信などを行う。農産物の収穫体験など、外国人に人気の体感型ツーリズムの企画開発も行う予定。

問 観光客をまちなか回遊へ送り出す工夫は。

答 施設内での観光情報の発信や歩いて楽しい道の整備、マップの作成など、おもてなしの向上に取り組む。レンタサイクルの事業化を検討していく。

問 駅、ホテル、商業施設が一体感を持ってつながることが、おもてなしという意味でも大切では。

答 一体感が必要。周辺の修景に一体感を持たせるなど、景観や動線を一体的に考えていきたい。

問 親子交流施設に女性の声を活かせる機会は。

答 子育ての応援活動をされている女性などに協力を求め、意見交換の場を設けていきたい。

問 妊婦さんや子どもたちが利用する施設となるが、受動喫煙防止への取り組みは十分か。

答 親子交流施設は禁煙とする。商業施設や広場は、テナントの意向を踏まえながら、禁煙、分煙などの方法により受動喫煙防止に取り組んでいきたい。

問

下水道汚泥と生ごみをバイオマス発電で活用する考えは。課題はあるが、効率的で、経済性・安全性に優れたシステムでの処理を目標に検討を進めている。

問

農業集落排水の汚泥の取り扱いは今後どうなるか。バイオマス資源としての利活用を含めて検討する。下水道汚泥の処理方針が確定し、市で処理できるようになれば、農地還元はなくなる。

答

豊橋市と田原市で広域処理する焼却処理施設の協議で、生ごみは田原市で処理する必要がある。そのため、生ごみと下水道汚泥などをまとめて利活用する可能性を改めて検討することとなった。

問

平成24年度から平成27年度にかけて下水道等汚泥の燃料化を十分検証し、実証試験を行ったのに、平成27年度に方針調整が必要になった理由は。

バイオマス事業について

2年程度をめどに決定する予定
下水道汚泥の処理方針が
確定する時期は



杉浦 文平
無所属クラブ